

私が派遣されているヨルダンは、中東のシリア・イスラエル・パレスチナ暫定自治区・サウジアラビア・イラクと隣接する国です。毎日よくニュースに出てくる国々に囲まれているため、赴任前は一体どのような国なのかとても心配でしたが、私が生活しているヨルダンの首都アンマンは、日本とほぼ変わらないとても発展した大都会で、ファーストフード店やおしゃれなレストラン、ショッピングモールもたくさんあります。



児童に衛生キットを配布する鄭看護師（右上）

都会を外れたところに行くと、視界一面に砂漠が広がって遠くの地平線までよく見えます。町の中にローマ時代の遺跡があったり、死海リゾートがあったり、大都会のショッピングモールの横の空き地で遊牧民の方が羊の群れを放牧していたりして、ヨルダンは地球の偉大さと歴史を感じることができるとても素敵な国です。

ヨルダンはシリア危機以前から多くのシリア人の方が住んでいましたが、シリア危機以降はヨルダン国内に2017年6月現在で660万人のシリア人難民が避難しています。

これらのシリア難民のうち、約80%が難民キャンプではなく市街地に居住しています。物価高のヨルダンの都市部に住む難民の方は、ヨルダンで最も貧しいとされる生活水準よりもさらに厳しい生活を強いられ、持病や病気になったりしても医療費を捻出できず医療サービスを受けられないという状況が問題となっています。

そのため、ヨルダン赤新月社と、私が現在出向している国際赤十字・赤新月社連盟は、「地域住民参加型保健事業」を行ない、シリア人難民・ヨルダン人両方の健康が向上することを目的に活動しています。

具体的にはシリア人・ヨルダン人の両方からなるボランティアを育成し、トレーニングを受けたボランティアの方が地域のお宅を訪問し、健康に関するレクチャーや医療ケアが必要なケースに遭遇した場合には地域の保健医療機関へ紹介するということを行っています。ただ、昨年12月にヨルダン国内で起きた銃撃事件による治安状況も影響して、ボランティアがお宅を訪問しても怪しんでドアを開けてもらえなかったり、訪問を拒否されたりということが起こっています。しかし、ボランティアの皆さんは地域、そして難民の方の力になりたいという一心で訪問を続け、健康に関するメッセージを今日も届けています。

私のヨルダンでの任務は、この「地域住民参加型保健事業」の質を向上させることと、この事業の管理です。看護師である知識を活かして、ボランティアさんへのトレーニング内容の向上に貢献できればと思っていましたが、実際はほとんどの業務時間をいただいたご寄付からなる予算管理や、事業の実施に伴う事務作業に費やしています。私は看護師の仕事しかしたことがないため、はじめの2か月間はオフィス業務に慣れるのに苦労し、またちょうどそのころにラマダン（イスラム教の断食月）があったため、業務時間内の空腹にも耐えながら仕事をしていました。ラマダン中であつたため、ボランティアさんや受益者の方には会う機会もほぼなく、一体自分はシリア難民やヨルダンの人々の役に立てているのかと何度も不安になったのを覚えています。今は、ボランティアさんとのミーティングや活動に参加する機会も増え、彼らの熱意ある活動を目にするたびに私自身も励まされ、この活動を最も脆弱な人々にまで届けることができるようにと事業管理を日々頑張っています。

昨年一年間にボランティアの方を通じて健康に関するメッセージを受け取った難民の方々は総勢33,214名にのぼります。中にはボランティアの訪問により1型糖尿病が発見され、適切な治療を受けられるようになったヨルダン人の子どもや、長年の喫煙をボランティアによる心理的サポートを受けてやめることができ、その後他の家族が住むドイツへの移住が実現したシリア人難民の方などがいらっしゃいます。これは、地域に住むヨルダン人そしてシリア難民の方自身がボランティアとなることにより達成できたことで、他の誰が変わっても決して果たすことができない重要な役割と成果であると思います。

オフィスから家に帰る途中、道端で物乞いをしているシリア人と思われる小さい子どもたちの姿を見かけるのが本当につらい瞬間です。夕方の交通ラッシュで行きかう車の間を縫って、空いている車の窓から小さな腕を入れて、物乞いをしています。何かにおびえる目つきで必死に物乞いをしているその姿を見るたびに、彼らがシリアで経験した惨事、そしてヨルダンに逃げてきたあとにも続く、我々の想像を絶するつらい日々、なんと言葉をかけたらいいいのか分からなくなります。また、ヨルダン赤新月社が行っている地域住民参加型保健事業に心理的サポートが含まれているのですが、ボランティアや難民の方の話聞くたびにその必要性をとて強く感じます。

ヨルダンの国も長引く中東危機により周辺国からの難民を受け入れ、疲労と苦境、そして先が見えない苦悩の中で支援を必要としています。

皆様からのご支援に感謝を申し上げますとともに、いつの日か難民の方々が精神的にも身体的にも元気な状態で故郷の地を再び踏むことができるよう、ヨルダン赤新月社の活動にさらなるご理解・ご支援をお願いいたします。



サマースクールで児童に手洗いの方法を教える  
ボランティアの方々



ボランティアミーティングの様子 (Balqa)



家庭訪問の様子をデモンストレーションしても  
らい、指導スキルを評価している様子



アンマンから車で1時間以内の Jerash の遺跡